芝浦工業大学における草の根的女子学生の取り組み

Grass-roots Activities of Female Students at Shibaura Institute of Technology

ホートン広瀬恵美子^{※1}

Emiko HIROSE HORTON

1. はじめに

少子化や理科離れから工学の分野では女子学生を増やすための取り組みが多く大学で行なわれている。その方策は、女子を対象とした高校訪問・説明会・オープンキャンパスにおける工夫・冊子発行・その他の広報活動、女子寮の建設や増設・トイレの改築・女子専用休憩室の設置などの施設整備等々、それぞれの大学で多岐にわたる。その活動の完成度も様々で、東北大学のサイエンスエンジェル¹⁾のように組織的にも完成され、女子学生が主体的に活動している取り組みがある一方で、冊子の作成・配付にとどまる場合も少なくない。芝浦工業大学でも女子学生増加に向けて各部署で複数の取り組みがなされている。例えば、オープンキャンパスにおいて、入試課の学生スタッフによる女子学生のキャンパスガイドを実施している。また、工学部では各学科ブースにできるだけ女子学生を配置している。これらの企画で女子学生の存在を目立たせることは、オープンキャンパスに参加する女子高校生や父兄にとって、女子の少ない工学・技術系への進学に対する不安を和らげる効果が期待できる。本報告では、このような取り組みの一つとして工学部の女子学生が自ら考え、計画し、大学側へ働きかけてきている活動を紹介する。小さな歩幅ではあるが、確実に前に進んでいる。そして、活動をしている女子学生自身にとっては自己の成長の大きなステップになっている。

2. 女子サークル設立の背景

2009年度後期に筆者が女子学生の意識調査のために数人の女子学生に集ってもらいディスカッションをする機会を数回持った。そのときに、もっと女子学生同士の交流が持てると心強いという意見があり、同席していた学生間で女子サークルを作ろうという話に発展していった。本学の女子学生の比率は工学部全体で10.6% (2010年度)、最も女子学生の多い学科で26.1%、少ない学科で2.6%というのが現状である。5,000人強の工学部には500名を超える女子学生がいる

ことになるが、学食のメニューが男子向けのものが多い、女性向けのイベントがない、トイレに女性への配慮がない等々、大学全体が男子学生仕様になっている感を覚えるという女子の声であった。女子学生間のネットワークを作り、様々な活動を通して女子学生にとってよりよい学習環境への改善と女子の入学生を増やすために自分たちでも何かできるのではないかとという方向に話が盛り上がっていった。そこから女子サークル設立に向けて彼女たちは動き始めた。そして、筆者はサークル顧問になることになった。

3. 女子サークルの活動

サークル立ち上げに尽力した大学院生1名(立ち上げ準備時は工学部4年生)、代表を務める建築学科2年生、副代表の通信工学科2年生と情報通信学科3年生を中心に、現在15名の登録メンバーでサークルは構成されている。サークル設立が承認された2010年4月からまだ9ヶ月が過ぎたばかりであるが、彼女たちの活動は目を見張るものがある。オープンキャンパスでの女子ブース開設、大学HPに女子高生向けバナーのアップ、立命館大学学生FDサミットへの参加と大学執行部への報告会、本学主催の人材育成シンポジウムでの発表と、各々の授業や課題に追われながらも頑張ってきている。

3.1 オープンキャンパスでの女子ブース

本学の入試課・広報課および各学科でも女子高生向け企画を実施していて、大学全体を通して女子学生増

図1 オープンキャンパス女子ブース風景

平成22年12月24日受付

※1 芝浦工業大学工学部

図2 「私の時間割」例

加に向けた取り組みがなされている。その中で、サークルの女子たちが自分たちで企画したのが「SIT-GIRLS' CAFÉ」(図1)であった。彼女たちは自分たちが高校生のときを思い起こし、大学のオープンキャンパスにどのような場所があったらよかったかを考えた。「気楽に在学生とおしゃべりをして、その大学のことを聞けるとよかった」というのが大方の意見で、自分たちでそのような場を提供したいという結論に至った。CAFÉでは飲み物を用意して一休みできる場を提供し、お揃いのTシャツを着たメンバーが女子高校生とその父兄に対応した。壁にはサークルメンバーが作成した「私の時間割」(図2)が掲示され、彼女たちの履修やアルバイトその他の時間の使い方が見える工夫をした。3日間のオープンキャンパスで約250名の高校生と父兄が女子ブースを訪れた。高校生もその父兄も女子が工学系の大学に進むことへの不安を解消するかのようになり、平均30～40分、長い場合は1時間以上談話をしていた。そして、オープンキャンパスで受けた質問とその対応をまとめたものが後に大学HPの女子高校生向けサイトに活用されることになる。

3.2 大学HPに女子向けサイトをアップ

大学HPトップに女子高校生向けバナー(図3)が開設され、彼女たちがまとめたQ&Aが2010年12月にアップされた。オープンキャンパスに来校した女子高校生と父兄から受けた質問に彼女たちが答えたものであり、その一つ一つに誠実に答える女子サークルメンバーの姿が見える内容となっている。その一つを以

下に紹介する。

Q:女の子の1人暮らしが不安です。大丈夫でしょうか?

A:私は実家が遠いので一人暮らしをしています。片道2時間くらいの女子学生は自宅通学が多いのですが、通学時間を考えると私の方が楽かもしれません。ゴールデンウィークや夏休みなどにちょくちょく実家に帰るようにしています。また、実家からいろいろ送ってきてくれるので、結構健康的な自炊食生活をしています。お料理の腕も上がりました。女子の一人暮らしの場合、やっぱりオートロックが付いているマンションとか、明るい道で帰れる立地条件などは押さえておいた方が良いでしょう。(M.S 通信工学科2年生)

3.3 学生参加のFD

女子サークルは工学分野に進む女子学生を増やすために自分たちに何ができるかを模索している。同時に、彼女たちは自分たちの成長をサークル活動の目的の一つとして捉えている。2008年度より年2回開催されている立命館大学学生FDサミットへの参加(図4)は、そんな彼女たちが学外に向けて動き出した第一歩であった。サークルの有志で企画した「学生参加の

http://www.shibaura-it.ac.jp/about/innovation_girls/q_and_a.html

図3 大学HP女子向けサイト

図4 学生FDサミットで他の大学教員と談話

FD」が学内の学生プロジェクトに採択され、大学院修士課程1年生1名・学部3年生1名・学部2年生2名の4名が立命館大学学生FDサミット（約40大学から200名を超える学生・教員が参加）に参加した。学生FDサミットでの多くの大学からの学生たちによる事例発表や、参加したグループ討論をとおして学んできたことを本学の学長補佐へ報告し、意見交換会を行った。そして、2011年度の立命館大学学生FDサミットでは自分たちの取り組みを紹介したいと準備をしている。学生プロジェクトに採択された本学の女子学生による「学生参加のFD」はサークルとしての活動ではない。あくまでもメンバーの内の有志数名による活動である。しかし、女子サークルはじめ本学の女子学生への大きな刺激となっている。

3.4 人材育成シンポジウムでの発表

2010年12月11日、本学の主催の「Σ型統合能力人材育成プログラム・シンポジウム 社会が求める人材」のパネリストの一人として、メンバーが参加した。そして、社会から求められているコミュニケーション能力・自主性と行動力の向上に、これまでの活動がどのようなにつながってきているかを紹介した。

4. 今後の展開

今後の活動として、メンバーたちは女子高生向け

HPの充実・女子学生にとっての学習環境に関するアンケート実施・2011年度の学生サミットに向けた準備・学科を越えた勉強会・女子ネットワークの拡大などを計画としてあげている。学生たちが自ら考え行動している取り組みは小さなものかもしれない。しかし、これらを計画し実行することは彼女たちの成長につながっていると確信する。

芝浦工業大学の女子学生数名から発足した女子サークルのこの一年の活動を報告した。本学では学長室はじめ大学全体で女子学生増加に向けた取り組みがなされている。その中で、女子サークルのこれまでの活動は工学部長はじめ多くの教職員のサポートを得て進めていくことができた。女子による女子のための活動は始まったばかりであり、今後の継続と発展のためには教育機関としてのサポートと彼女たちの成長が鍵となる。

参 考 資 料

1) 東北大学サイエンスエンジェル

<http://www.morihime.tohoku.ac.jp/sa/index.html>